



お盆お施餓鬼法要が厳粛に行われました。

お盆

復刊第三号
2008年8月
身延別院発行
〒103-0001
東京都中央区
日本橋小伝馬町3-2
Tel 03-3661-3996
Fax 03-3663-2766

施餓鬼大法要に五十人



身延別院の盂蘭盆会施餓鬼大法要が、七月十六日午後一時から、本堂で行われました。当院の施餓鬼大法要は、毎年、お盆(盂蘭盆会)の送り火の日に行っている恒例の行事。今年は檀信徒約五十人が本堂に集い、全員でお経をあげ、ご先祖をはじめ、ご縁のあった方々を供養しました。

中国で成立した『盂蘭盆経』というお経に次のような説話が出てきます。昔、お釈迦さまのお弟子に目連尊者という人がいました。その母が亡くなり、餓鬼道に落ちてやせ衰えているのを、目連尊者は心眼によって見透し、助けようと思いました。しかし、救い出すことができず、お釈迦さまに教えを請いました。するとお釈迦さまは、「目連一人の力では助け出せないだろう。七月十五日に衆僧に供養し、その功德によって、母を餓鬼道から救い出しなさい」と命じたのでした。目連尊者はお釈迦さまの言われた通りに衆僧に供養し、母を助けたのでした。盂蘭盆とは、梵語ウランバナ(逆さ吊り、の意)の音写とも、食べ物盛るお盆のこととも言われています。

お盆は一般に、七月十二日夕方のお迎え火に始まり、十六日の送り火に終わります。十五日が中心です。身延別院では一足早く、七月十二日に精霊をお迎えしました。本堂の中央には精霊棚が設けられ、野菜、果物などがたくさん供えられました。また、大法要に先立ち、藤井住職、藤井教祥副住職、河野師らが檀信徒の皆さんの家々をお経参りにあがりました。(平)

御首題を いただく旅

第三回 新潟・妙光寺

「三題目」の霊地に建つ寺

私が新聞社に入社して今年で二十四年になります。最初の五年は地方の支局で過ごし、一九九〇年十月に、東京本社で、暮らしと家庭を担当する部署に配属されました。

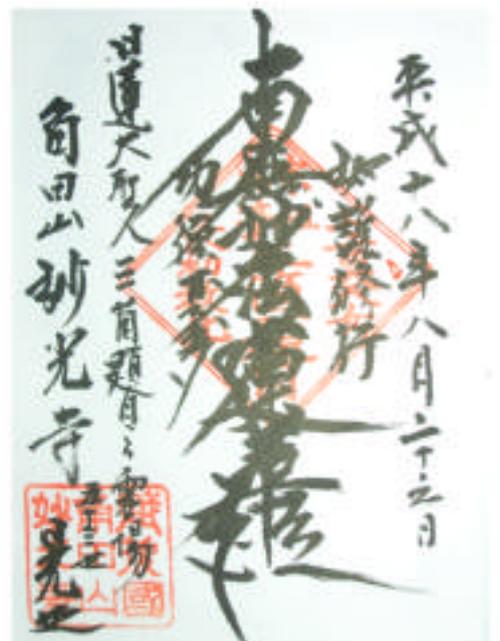


そこで最初に取り組んだ連載企画が「お墓と家族」をテーマにした記事でした。当時、後継ぎがいなくても申し込むことができ、お寺が続く限り供養するという、新しいタイプのお墓が登場していました。今で言う「永代供養墓」のことで、今日では一般的になりましたが、当時は承継者がいないとお墓を買うことは難しかったです。

私は永代供養墓の草分けの寺を訪ねることにし、最初に訪れたのが新潟県巻町(現・新潟市西蒲区)にある角田山(かくださん)妙光寺でした。都会の人から見ればへんぴなところにあるのですが、この永代供養墓「安穩廟」を求めた人の半分が首都圏の人であると聞いて驚きました。当時、全国紙やNHKなどが何度も安穩廟のことを取り上げていたためでした。住職は情熱家で、とても気さくな方でした。その後、私がお墓やお寺をテーマとする記事を担当したときはたびたびコメントをいただきました。

私が御首題をいただく旅

を始めるようになって、ふと妙光寺のことが気になり始めました。十五年以上の長いおつきあいになるのに



住職とは新しいお墓やお葬式について議論するばかりで、日蓮宗の寺院としてのアプローチを全くしていなかったのです。あるとき妙光寺の歴史を伺ってみると、日蓮聖人とたいへん縁の深い場所であることを語ってくれました。聖人は佐渡に流罪となり、寺泊から船で出発したものの、大風に遭って押し戻され、角田浜という海岸に漂着しました。聖人はここで「岸の題目」「岩の題目」「波の題目」の伝説を残しています。日朗上人の弟子である日印上人が正和二年(一一三三年)、この「三題目」の霊地に妙光寺を創建したと伝えられています。角田浜はすぐ近くで、境内には波音が聞こえてきそうです。岩の題目を伝える巨大な岩穴の前にたたずむと、霊気が伝わってくるのをだれもが感じるでしょう。そんなわけで、最初にお寺を訪ねてから十五年以上もたつて、御首題をいただいたのでした。(平山徹・新聞記者)

活動してます！ 青年会



祖山を参詣

身延別院青年会の会員十人が四月二十六、二十七日、日蓮宗総本山である身延山久遠寺を参拝しました。
一行は二十六日朝、乗用車二台に分乗して都内を出発、昼過ぎに身延山岸之坊に到着しました。本堂、祖師堂をお参り



した後、水鳴楼で内野日総法主猊下にお目通りをしました。続いて西谷の日蓮聖人の御廟所を参詣しました。宿泊は、身延町内の下部温泉に移動し、下部ホテルで食事と温泉を楽しみました。翌二十七日は五重塔奉賛会の上田本幸上人の案内で、五重塔の建設現場を見学しました。
最上階の五層目から見下ろす伽藍は、だれもが初めて見る光景で、会員からは驚きの声が上がっていました。
参加会員は以下の通り。斉藤貴紀、田中慎也、灘本会理、山田高平、藤井教祥、山田聖哉、大櫛由美、上野蘭子、加藤綾乃、寺崎通代(敬称略)



写真上 身延山久遠寺大奥水鳴楼にて。

写真中 建築中の身延山五重塔を見学。

写真左 身延山御真骨堂拝殿前にて。

境内で流しそうめん

身延別院青年会は六月十四日、境内で、流しそうめん大会を開きました。青年会が活動方針の一つとして掲げている「子育て支援活動」の一環として開催したもので、小さな子どもさん

のいる親子六組が参加しました。流しそうめんの「舞台」は当日までに会員が準備しました。流しそうめんを流す竹は全長八メートル。長さ四メートルの竹を二つに割ったもの



をつなぎました。流しそうめんは五十束を用意しました。流しそうめんを水と一緒に流し始めると、子どもたちは大喜び。お父さん、お母さんと一緒に、お箸を使って流しそうめんをすくい上げていました。初対面の参加者もすっかりうち解けた様子でした。

参加会員は以下の通り。岡田泰蔵、関口真奈美、藤田賢、山田高平、龍佑企子、田中慎也、斉藤貴紀、藤井教祥(敬称略)



一緒に活動しませんか

身延別院青年会は現在、二十〜三十歳代の男女十六人で活動しています。月に一回程度の例会を別院地下ホールで開くほか、二か月に一回程度の「子育て支援活動」、各地のお寺などへの団体参拝などを行っています。また、お会式、節分など別院の年中行事の奉仕活動を行っています。現在、会員を募集しています。興味のある方、参加希望の方は身延別院の青年会事務局(藤井教祥)までご連絡下さい。

寺の動き

短冊つるして七夕祈願

身延別院では七月七日、七夕祈願を行いました。地域の皆さまからも親しまれている恒例の行事で、今年は四日から境内に笹竹が設置されました。竹笹には、「身体健全」「事業繁栄」「志望大学に合格できますように」など、様々な願い事の書かれた短冊がたくさんつるされました。

七夕の当日は小雨の降るあいにくの天気となつてしまいましたが、雨にぬれた竹笹ときらびやかな飾り付けが美しいハーモニを創り出していました。



花祭りで色鮮やかな御堂

身延別院で四月八日、花祭り(灌仏会)が行われました。花祭りはお釈迦さまの誕生を祝う恒例の行事です。本堂の入り口には、キンセンカ、カーネーション、ストックなどの花で作った御堂と誕生仏(お釈迦さま)が安置されました。赤やピンクが色鮮やかな花の御堂に目を引いた人も多かったのではないのでしょうか。当日はあいにくの雨に見舞われましたが、訪れた人はひしゃくで誕生仏に甘茶を灌いでお参りしていました。

今年もお稚児さん募集

身延別院では十一月三日に行われるお会式で、今年もお稚児さん行列を予定しております。行列に参加されるお稚児さんを募集します。

お稚児さん行列は、檀信徒の皆さまはもちろん、地域の皆さまにもお会式に親しんでもらおうと昨年、二十年ぶりに復活させたものです。お題目と団扇太鼓の音に合わせて小伝馬町界隈を八百メートルほど練り歩きました。参加された皆さまからは「いい記念になった」「みんな街を歩くのはとてもすがすがしかった」などの感想をいただきました。どうぞふるってご参加ください。

春季彼岸会法要に五十人

身延別院の春季彼岸会施餓鬼法要が三月二十三日午後一時から、本堂で営まれました。檀信徒約五十人が本堂に集い、全員でお経をあげ、ご先祖をはじめ、ご縁のあった方々を供養しました。



金沢・能登団参の旅

身延別院では十月四日から六日まで、二泊三日の予定で、石川県金沢・能登への団体参拝を企画しました。忍者寺として知られている金沢市の妙立寺、境内の建物のほとんどが国の重要文化財に指定されている羽咋市の本山・妙成寺を参拝します。

金沢市内では日本三名園の一つ、兼六園をはじめ近江町市場、加賀友禅伝統産業会館などをまわります。また、和倉温泉では日本一の旅館加賀屋の渚亭に宿泊します。輪島朝市、キリコ会館などをめぐって空路帰京する予定です。費用は、九万八千円程度(人数により変動する



写真上 妙成寺五重塔。
国の重要文化財。
写真左 妙成寺本堂。
国の重要文化財。

可能性があります)。締め切りは八月末となっております。どうぞふるってご参加くださいますようご案内申し上げます。

お会式の花作り

身延別院のお会式で、本堂の内外に飾り付ける花作りを、今年十月十九、二十日に行います。ピンクと白の薄紙を花の形に作製し、竹と万灯に結びつける作業です。一時間でも二時間でも、都合のつく日、都合のつく時間でかまいません。お手伝いいただける方、どうぞよろしくお願ひします。

今後の予定

九月一日(月) 願満祖師終日お開帳

二十日(土)～二十六日(金) 秋季彼岸会

二十六日(金) 彼岸会施餓鬼法要

午後一時より

十月一日(水) 願満祖師終日お開帳

四日(土)～六日(月) 金沢・能登団参

十九日(日)、二十日(月) お会式花づくり

十一月一日(土) 大荒行堂入行会

願満祖師終日お開帳

三日(月) 宗祖報恩会式

(十三日講は九月～十一月までお休みです)

編集後記

旧盆の時期となりました。第三号をお送りします。例によって平山さん、上野さんお二人の助けによって完成しました。今号は青年会の活動を大きく取り上げました。お寺に若い人々の姿があると、まわりも活気づいてきます。どうぞご子弟やお孫さんに入会をお勧め下さい。今回、誌面を全面カラーにしましたが、まだあれこれ試行錯誤の段階です。檀信徒の皆さんの中で掲載希望の記事があればお知らせ下さい。次の発行はお会式後を予定しています。(潮)